

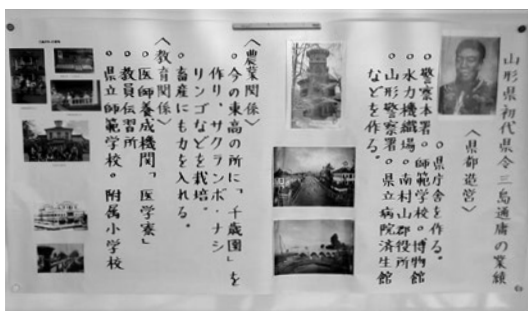
## 初代山形県令三島通庸を通して、 明治新政府の政策意図を捉える

～西郷隆盛と大久保利通、二人の維新の立役者と郷土山形との関わり～

半田真人 | 天童市立天童南部小学校

### 1. 県令の配置から明治新政府の意図を捉える

三島通庸<sup>みちつね</sup>は、幾多の県令の中No.1の実力者と言われる、大久保利通の命で1874年酒田県令に任命される。その後、間もなく酒田県は、山形と置賜と共に統合され、三島は、統一山形県の初代県令となる。三島は、当時「陸の孤島」と言われた山形県を土木、建築、教育、農業等、様々な分野で発展させた。一方で多額の土木工事費を民衆から強制徴収し「鬼県令」と恐れられる。日本最大の難工事、栗子トンネルの造



▲三島通庸の業績を大判用紙にまとめたもの

成を断行したり、道路開通のために民家を強制的に取り壊したり、反対者を投獄するなどもした。その事実、子どもたちは「なぜ全国県令No.1の三島が東北の小県酒田県に配置され、あれだけ急ピッチで道路工事を断行したのか」という疑問を抱いた。

### 2. 授業の実際

その後、子どもたちに次の資料を提示した。

- ①酒田県の前身庄内藩は戊辰戦争時、奥羽越列藩同盟中最強で、無敗であったこと。
- ②最終的に庄内藩は降伏したが、西郷隆盛の寛大な処置に庄内藩士たちが心酔したこと。
- ③その後、政府の対応に不満が高まり騒動が起こったこと。全国でも士族の反乱が相次いだこと。

④戊辰戦争中、山形県の交通の不便さが、官軍が進軍する上で大障害になったこと。

⑤三島通庸に関連する年表

以上の資料から課題を考えた結果、

**A**政府が西郷に協力しそうな旧庄内藩士を抑えるため実力者の三島を酒田県に送った。そして、いざという時に大軍隊を送り込めるよう山形県の道路工事を進めた。

**B**当時、山形県は陸の孤島と呼ばれており、交通の便を良くして、人々の暮らしを豊かにしようとした。

**C**不可能と言われた道路工事を進めることにより、政府に自分の力を示したいと考えた。

等の考えが出た。

次にグループで話し合いを行わせた。子どもたちは、明治新政府の喫緊の課題は、不平士族を中心とした地方の反乱を抑えて、中央集権化を押し進めていくことだと考え、**A**の考えにまとまっていった。また、山形県の正確な情報が政府に伝わると共に、命令も行き届くという利点にも気付いた。

しかし、**B**の考えにも一理あることに気付く。道路が良くなれば、物資が入りし、暮らしが豊かになる。反乱が起こるのは暮らしへの不満があるからである。豊かさで安定を図るという三島県政への前向きな捉えである。その後「山形市史」で、**A・B**ともに正しい考え方であることを確認した。

### 3. おわりに

子どもたちは郷土山形から明治政府の政策意図を読み取れる事が楽しかったようだ。山形が国の行く末を左右しかねない重要な地で、西郷や大久保とつながっていたことに新鮮な驚きを覚え、学習への意欲がより高まったのは、何より嬉しい事実だった。